

教材名	くつひものちょう結び		
指導の形態	自立活動	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・目と手の協調運動を高める。 ・日常生活にかかわる手の巧み性を高め、実際の生活に役立てる。

【写真】



指導方法

- ① 片側のくつに、緑色のひもに白色のひもを継ぎ足したひもを通し、もう一方には緑色のひもを通したくつを用意する。
- ② ちょう結びの際の輪を通すくつひもの場所に、赤のビニールテープを巻く。
- ③ 教師が示範を示す。
- ④ 教師が手を添えて、生徒にちょう結びをつくらせる。
- ⑤ ちょう結びをつくる際に、赤のビニールテープの部分を通してできることを教師と一緒に確認する。
- ⑥ 教師が手を添えて、ちょう結びの練習をする。
- ⑦ ちょう結びが教師の支持なく一人でできたら、黄色の○シールをはる。

備考

〈ひもぐつの活用の効果〉

生徒自身が一般的に利用するひもぐつを教材として活用することで、ちょう結びができるようになると、次の段階では日常生活においてひもぐつを利用することができる。

〈ひもの色の違いの効果〉

色の違う継ぎ足したひもを利用することで、ちょう結びつくりの手続きの混乱を防ぐことができる。

〈準備物〉

ひもぐつ、緑色のひもに白色のひもを継ぎ足したひも、赤のビニールテープ、黄色の○シール